

<p>研究課題名 (承認番号)</p>	<p>Japan Ablation Registry: Cryofreezing Ablation in Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia (JARCA study): Results from a Large Multicenter Retrospective Investigation. 房室結節回帰頻拍に対する冷凍アブレーション 治療法の臨床的研究（日本国内多施設共同研究）</p> <p>(承認番号 2017-73 番)</p>
<p>研究機関名</p>	<p>横浜市立みなと赤十字病院</p>
<p>研究責任者</p>	<p>所属 心臓病センター 氏名 沖重 薫</p>
<p>研究期間</p>	<p>(西暦) 2017年11月 ~ 2018年5月</p>
<p>研究の意義・目的</p>	<p>2015年7月より冷凍システムカテーテルアブレーションシステムが本邦で臨床使用可能となりました。2014年7月より臨床使用可能となった冷凍バルーンカテーテルは心房細動例において肺静脈隔離術に適用されますが、このスポットカテーテルはそれ以外の不整脈に対して適用されます。今回は頻脈性不整脈のなかでも特に房室結節回帰頻拍に対して治療を行った結果を検討しまして、本疾患に対する本システムの安全性および有効性を検討し、今後の治療に活かしていくことを目的とします。</p>
<p>研究の方法 (対象期間含む)</p>	<p>本研究は後方視的観察研究であります。対象期間は2015年7月1日から2017年9月30日までに本治療法を受けた患者さんすべてが対象となります。</p> <p>薬剤抵抗性の房室結節回帰頻拍例に対して冷凍システムを用いたカテーテルアブレーション治療を行います。電極カテーテルを心臓内部必要各所に留置し、不整脈の診断を行った後（房室結節回帰頻拍の診断が確定した後）に冷凍アブレーションカテーテルを用いて、治療必要箇所を冷凍エネルギーにより治療目的で挫滅します。本治療法による手術前後の心臓機能の変化（不整脈発作の誘発性など）を測定し、かつ合併症の発生に関しても綿密に検討いたします。本治療法の術後経過を評価します。また長期成績を検討するために外来フォローにより本疾患の再発率等を検討します。</p> <p>本研究は、本邦において本治療法施行例数がトップ10に入る施設のデータを集積しまして統計的検討などを行います。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>患者さんの個人情報の守秘義務を全うします。データ収集および解析の段階からすべての個人情報は記号化され個人の特長ができない状況となります。情報は当院本研究責任者の沖重薫が厳重に保管いたします。</p>

<p>問合わせ先</p>	<p>本件は、当院ホームページに公開されます。 当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問合わせ</p> <p>〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 心臓病センター 氏名 沖重 薫</p> <p>TEL:045-628-6100（代表）内線 3808（事務局） FAX:045-628-6101</p>
--------------	--